

オオゴキブリ

Panesthia angustipennis (Shiraki)

ゴキブリ目オオゴキブリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

原植生の照葉樹林における代表的な昆虫で、県内の生息地は限られ、隔離分布している。

形態

成虫の体長は40mm内外である。体は漆黒色で翅は腹部全体を覆う。腹部は扁平で幅広く、前肢腿節には棘状の突起を有する。

国内分布

本州、四国、九州、屋久島に分布するが、北方における分布は局地的である。

県内分布

県内で生息が確認されたのは、加賀市から珠洲市まで13箇所、そのうち9箇所は加賀地方南部に集中している。生息地は標高5mから80mの範囲にあって、平野部の原植生であるヤブコウジースダジイ群集が残存している社叢林や城跡が主であるが、二次林から発見された所もある。

生態

発生木は照葉樹林内にある朽ち木で、太い倒木、切り株のほか、立枯れ木の高さ1～2mの部位から見つかった所もある。発生木の樹種はスダジイが最も多く、他にアカマツやモミからも見出される。幼、成虫は四季を通じて朽ち木の中で集団生活しており、移動性は小さいものと思われる。

生息地の条件

生息地が照葉樹林であっても二次林であっても、林内に幼虫の発生木となる大きな倒木や立枯れ木があることが重要である。発生木は表面が柔らかく、中が堅めのもので薄暗い湿った場所に多い。したがって、林内が明るく、枯木のない管理の行き届いた社叢林では生息できない。

生存の危機

生息地のうち9箇所は1ha以下で狭いうえ、発生木が1～5本と少なく生息基盤が脆弱なため、生存に好適な枯れ木がなくなれば、絶滅の可能性がある。生息地における倒木や立枯れ木の除去などの林内の整備は生息地の破壊につながる。生息地の環境整備は上記のことに留意し、最少限にとどめるべきである。(A)

特記事項

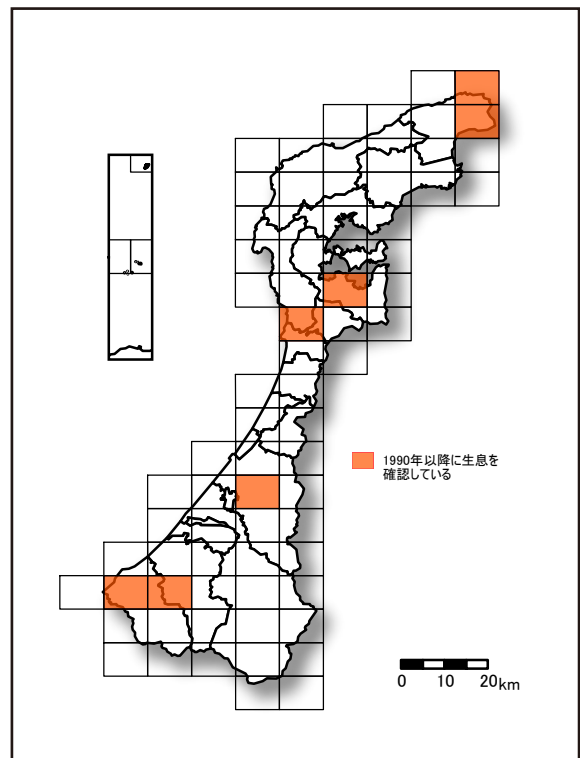
照葉樹林の遺存種として重要である。

参考文献

富沢 章 1999. 石川県におけるオオゴキブリの新産地と生息状況. 月刊むし, (346) : 22-23.



写真提供者: 富沢章



県内の分布